

# ヨコレイ NOTE VOL.17

第69期報告書

平成27年10月1日～平成28年9月30日

P1 トップインタビュー・財務ハイライト

P3 営業の概況・事業別の概況

P4 連結財務諸表(要約)

P5 ヨコレイの目指す姿

P9 会社情報

P10 News & Topics

「食の安全・安心」が家族の笑顔をつくる



## 品質を重視した高付加価値物流の提供と強みのある商材の開拓を進めていきます。

Q 当期(第69期)の営業状況を振り返り、ご説明願います。

利益重視の方針のもと、減収ながら過去最高益を更新。営業利益・経常利益は計画以上の成果となりました。

連結業績は、売上高1,486億9百万円(前期比4.0%減)、営業利益51億69百万円(同33.4%増)、経常利益53億42百万円(同32.2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益29億32百万円(同16.5%増)となり、減収ながら営業利益と経常利益については過去最高益の更新を果たしました。計画値に対しては、円高の影響や畜肉相場下落、水産物の不漁などを受け、売上高が未達減収とな

ったものの、営業利益・経常利益は想定以上の成果を上げました。ただし親会社株主に帰属する当期純利益は、老朽化した子安物流センターの取り壊しにかかわる特別損失の計上により、計画を若干下回りました。

冷蔵倉庫事業は、平成26年9月期以降に新設したワンノイ物流センター2号棟、石狩第二物流センター、夢洲物流センター、都城第二物流センターがいずれもフル稼働となり、既存拠点も含めて入出庫取扱量・在庫量を伸ばしたことから、増収・増益となりました。タイ連結子会社THAI YOKOREI CO., LTD.は、経済停滞と通貨下落の影響により減収減益となりましたが、当期から稼働したバンパコン第2物流センターも順調に立ち上がり、現地の底堅いワールドチェーンニーズを獲得しています。

### 財務ハイライト

#### ごあいさつ

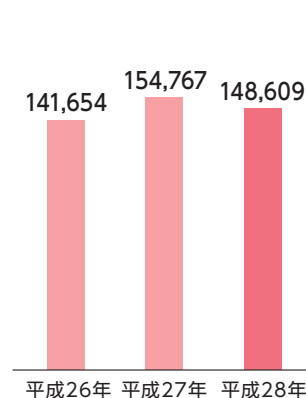
株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より当社事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

ここに第69期(平成27年10月1日~平成28年9月30日)における営業の成果をご報告し、今後の成長に向けた取り組みについてご説明させていただきます。

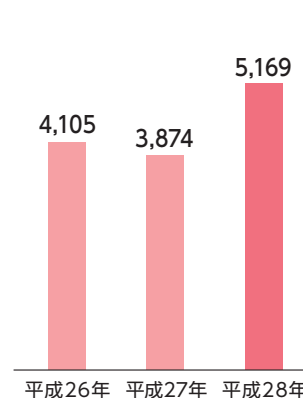
平成28年12月

代表取締役社長 **西山 敏彦**

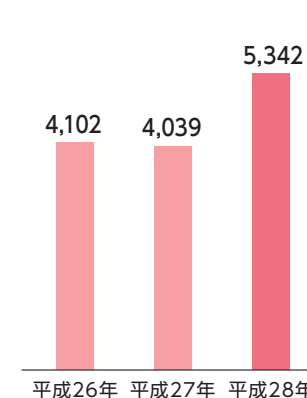
売上高 (百万円)



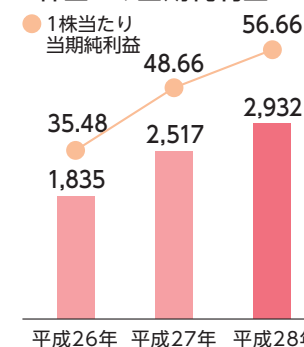
営業利益 (百万円)



経常利益 (百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益(百万円) / 1株当たり当期純利益(円)





食品販売事業は、ホタテ生産量の大幅な減少やチキンの相場下落が響き、売上高が減少する中、回転率重視の販売に徹して在庫圧縮に努めたことで、利益を大きく改善しました。ノルウェーのHofseth International ASとの協業によるアトランティックサーモン事業も着実に進展し、今後の業績貢献が期待出来る状況です。当期はヨコレイグループで水産加工場を3施設保有するSyvde Eiendom ASおよびトラウトの養殖事業会社であるFjordlaks Aqua ASの2社の全株式を取得しました。これにより同国サーモンおよびトラウト事業の生産から加工・販売に至る一貫した垂直統合モデルを完結させることが出来ました。世界的に養殖鮭鱒類の需給がひっ迫する中、原料を調達するネットワークを強化出来たのは非常に大きなことと考えます。

### Q 第5次中期経営計画の進捗状況としてはいかがですか？

**「最適物流の提供」と「安定収益の確立」の着実な進展により、計画最終年度の目標達成を見込んでいます。**

第5次中期経営計画「Flap The Wings 2017」は、3ヵ年計画の2年度目を終え、今期(第70期)で最終年度を迎えます。利益重視の方針に基づく業績拡大は、今のところ順調な成果を上げており、定量目標として掲げた第70期連結業績における売上高1,650億円、営業利益および経常利益57億円、親会社株主に帰属する当期純利益32億円については、十分に達成可能であると見込んでいます。

冷蔵倉庫事業は、本計画において「“COOL” ネットワークのリーディングカンパニー」を標榜し、最適物流の提供を実現すべく拠点の拡充とともに提案型営業を

推進しています。当期は8月に十勝第三物流センターが稼働し、平成28年11月には隣接地に選果機能を有する十勝ソーティングスポットが竣工しました。これら施設と当社グループで農産品の生産を行うダイヤモンド十勝が連携し、ヨコレイグループで農産品の生産・集荷・選別・保管・販売の一貫した体制を整えました。今期は、幸手物流センター(仮称)の竣工を平成29年6月に予定し、新たに京浜島で物流センターの建設に着工するなど、圏央道および東京湾近郊の拠点を拡充していきます。

また、従来の広域営業体制から東日本・西日本に各担当執行役員を置くエリア体制に細分化し、お客様の物流効率化に資する提案型営業を更に強化しています。単に貨物を集める営業でなく、品質を重視した高付加価値物流の提供による拡大を目指します。

食品販売事業は、「安定収益の確立」を方針に掲げ、当期業績が示す通り、利益改善を着実に進めています。同時に、強みのある商材の発掘に注力し、前述のノルウェー産サーモンに加え、ブルネイ王国産のエビや欧州産のプレミアムポークなどの販売実績を伸ばしていきます。今後は、消費地への営業を強化し、産地における営業力との相乗効果を発揮していきます。

### Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

**堅実性を大切にしながら、持続的な成長に向けた投資を実行し、低温物流のエキスパートとして世の中に貢献します。**

今期は「Flap The Wings 2017」の総仕上げとして、ここに述べました「最適物流の提供」と「安定収益の確立」を更に推し進め、中期経営計画の定量目標達成により、株主の

皆様のご期待に応えていく所存です。

2年後の平成30年に創業70周年を迎える当社は、その長い歴史の中で本業に徹し続け、上場以来54年間にわたり赤字に転落することなく、安定成長を維持してきました。これからも企業文化として育んできた堅実性を大切にしながら、持続的な成長を実現すべく、5年先・10年先を見据えた投資を実行し、生活と産業を支える低温物流のエキスパートとして世の中に貢献してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き当事業へのご理解とともに一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



# 営業の概況・事業別の概況

## 営業の概況

### 当期の概況

食品関連業界は、原材料価格の高騰による価格転嫁の進展や円高傾向により収益面の改善が見られるも、消費マインドは低価格指向が強まる傾向にあり、厳しい経営環境が続く。

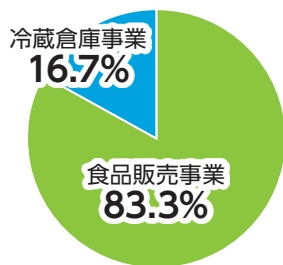
冷蔵倉庫事業は、期初より高水準の在庫状態で推移、畜産品や冷凍食品を中心に好調な荷動きが続き、順調に計画目標を達成。

食品販売事業は、(株)アライアンスシーフーズの海外事業が順調に伸展するも、一部の畜産品の市況悪化により取扱量を抑制したため、計画目標は未達。

### 事業別売上高構成比

当期(平成28年9月期)  
売上高合計

**148,609**百万円



### 今期の見通しと業績予想

冷蔵倉庫事業は、中期経営計画の主要施策に引き続き注力し、将来に向けて重点地域への設備増強を図ります。食品販売事業は、ノルウェー事業の早期の体制安定化と、国内事業において強みの産地と消費地の事業連携の強化を更に進めていきます。

通期の連結業績については、以下の通り予想します。

売上高	1,650	億円
営業利益	57	億円
経常利益	57	億円
親会社株主に帰属する当期純利益	32	億円
1株当たり当期純利益	61	円83銭

## 事業別の概況

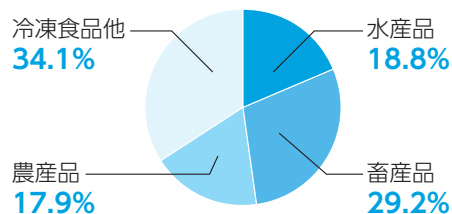
### 冷蔵倉庫事業

近年立ち上げた物流センターの稼働率向上、広域営業の伸長、提案型営業の展開などにより、臨時経費等を吸収して増収増益。

入庫取扱量は前期比で約47千トン増加、出庫取扱量は同約81千トン増加、平均保管在庫量は同約177千トンの増加。

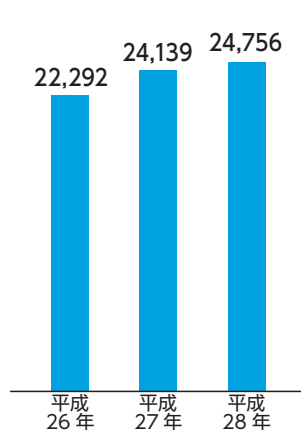
THAI YOKOREI CO., LTD.は減収減益も、当事業の業績は、売上高24,756百万円(前期比2.6%増)、営業利益5,751百万円(同21.1%増)の増収増益。

### 当期在庫量品目別割合



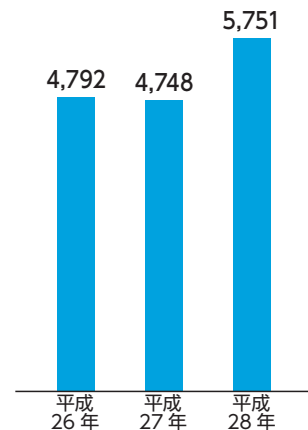
### 売上高

(百万円)



### 営業利益

(百万円)



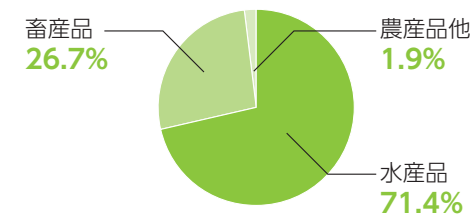
### 食品販売事業

水産品は売上・利益が微増。Hofseth International ASとの共同事業により、鮭鱒類が大きく業績に貢献。エビ・ホッケは利益率改善も、ホタテは生産量激減の影響で売上、利益とも減少。

畜産品は、チキンが損失計上し、ポークが減収ながらも利益は改善し、減収増益。農産品は、馬鈴薯が好調も長芋の不作などで減収増益。

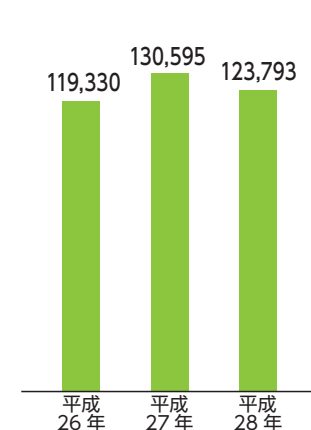
当事業の業績は、売上高123,793百万円(前期比5.2%減)、営業利益1,618百万円(同36.1%増)の減収増益。

### 当期品目別売上高構成比



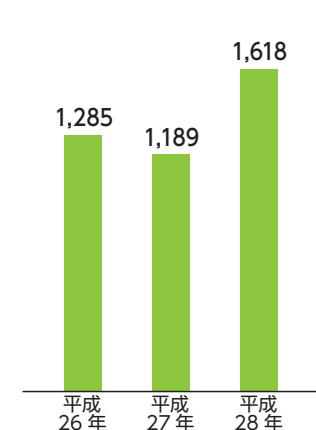
### 売上高

(百万円)



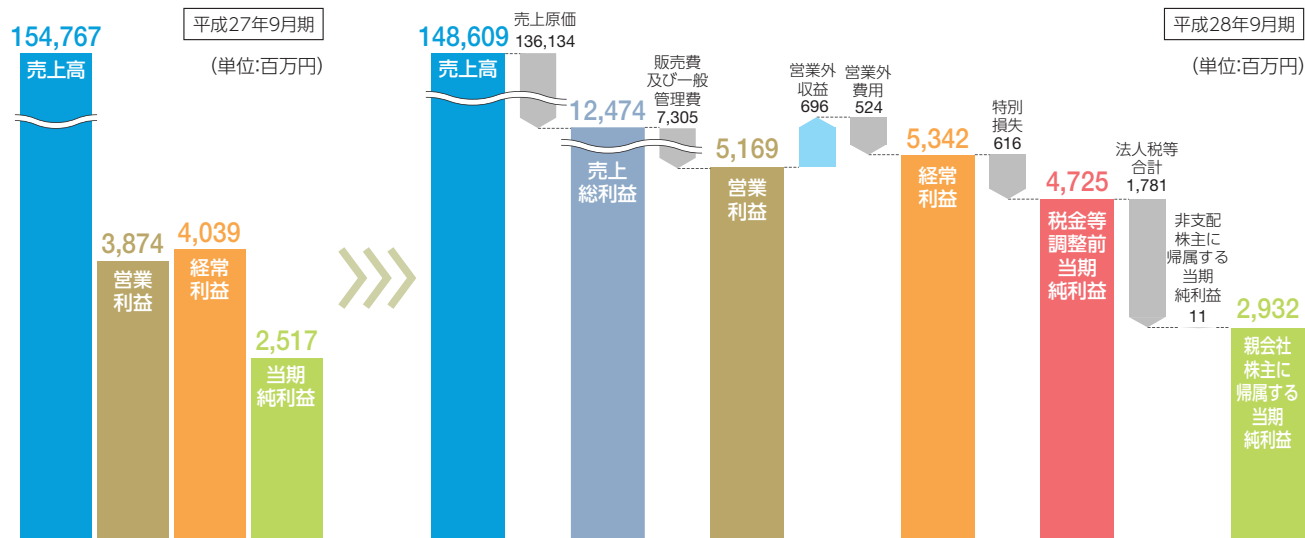
### 営業利益

(百万円)

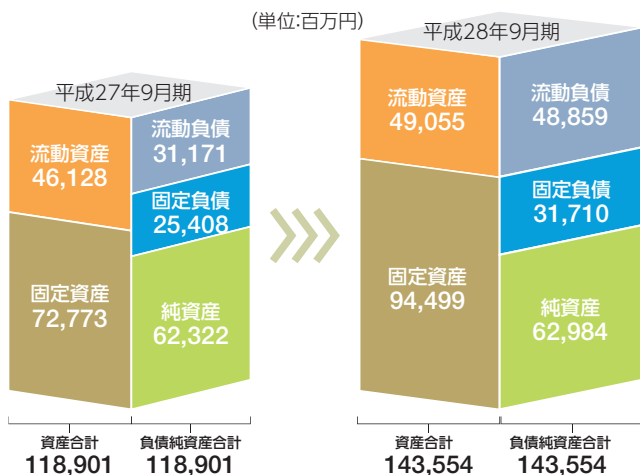


## 連結財務状況

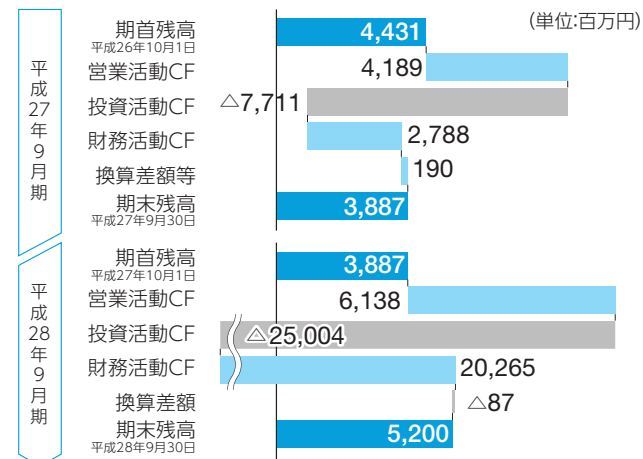
### ◆ 損益の状況



### ◆ 資産・負債・純資産の状況



### ◆ キャッシュ・フローの状況



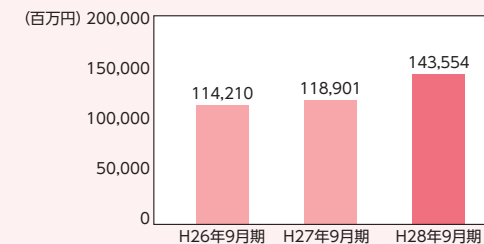
## もっとくわしく!

### 新規連結子会社の影響について

Syvde Eiendom AS及びFjordlaks Aqua ASを新たに連結子会社とした事による、総資産とキャッシュ・フローへの影響について、下記で説明いたします。

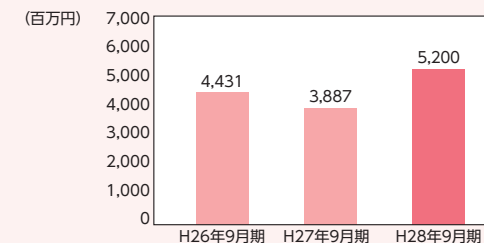
#### 総資産

子会社株式の取得に伴うのれんが11,935百万円、物流センターの新設等に伴う有形固定資産が8,836百万円、現金及び預金が1,322百万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ24,652百万円増加し、143,554百万円となりました。



#### キャッシュ・フロー

投資CFは子会社株式の取得による支出12,973百万円と、有形固定資産の取得による支出11,166百万円などで25,004百万円減少、財務CFは借入金の純増額21,423百万円による資金の増加などで20,265百万円増加し、全体のCFは5,200百万円となりました。





# クールネットワークのリーディングカンパニー

## COOL Comfort & Originality Outsourcing Logistics

定量目標

売上高  
**252**億円

営業利益  
**52.2**億円

顧客ニーズと地域のニーズに応えながら、  
将来を見据えた重要拠点の拡充に取り組んでいます。

### ■ 十勝第三物流センター

十勝物流センターおよび十勝第二物流センター隣接地に「十勝第三物流センター」が2016年8月に竣工しました。隣接する2センターを含む3センター合計の収容能力は6万トンを超え、道内最大級の低温物流基地となります。11月に竣工したヨコレイ十勝ソーティングスポット、農地所有適格法人ダイヤモンド十勝とともに、農産物の生産・選果・保管・販売までヨコレイグループで取り扱います。



### ■ 福岡市アイランドシティ

2016年3月に土地取得を決定した、港湾関連用地が含まれる福岡市のアイランドシティみなとづくりエリアは、国際コンテナターミナルを有し、博多港全体の国際海上コンテナ貨物の約5割強を取り扱う、重要な国際物流拠点です。新たに冷蔵倉庫を建設し九州地区の低温物流ニーズに応えつつ、将来的な国際海上コンテナ輸送の拡大を見据えます。

提供：福岡市港湾空港局



### ■ 国内拠点



## 方針

# 保管・物流拠点化、全国ネットワーク化を進めることにより、顧客に最適物流を提供する

### ■ 幸手物流センター(仮称)

首都圏の物流網を広域にカバーする圏央道へのアクセスを活かす「幸手物流センター(仮称)」の工事を、2017年6月の完成に向け開始しています。圏央道に繋がる東北道・関越道へのアクセスも良く、抜群の立地条件です。圏央道地域の他4つのセンターとのネットワークを活用し、低温物流ニーズに応える最適な物流サービスを提供します。

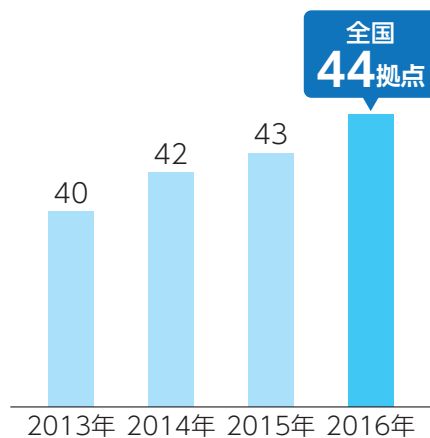


### ■ 大田区京浜島(京浜ブロック)

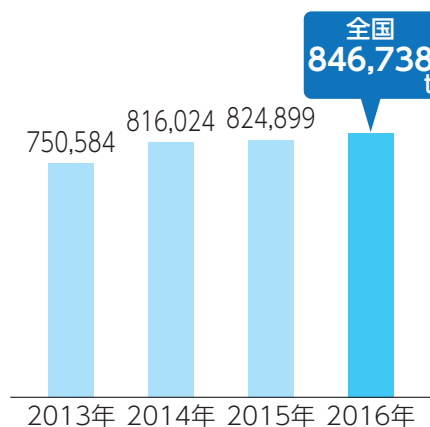
東京港や羽田空港に近接した国内最大の貨物集積地である、東京都大田区京浜島の土地10,900.92㎡を2015年9月に取得しました。取得地には、2万1千トン程度の最新鋭の物流センターを建設する計画です。今後のフリートレード時代を見据えた戦略的な拠点となります。



### 国内拠点数



### 国内倉庫収容能力



### タイ拠点

#### 需要拡大が見込まれるタイ市場での事業展開

経済成長に伴う低温物流のニーズが高まるタイでは、THAI YOKOREI CO., LTD.が現地NO.1の冷蔵・冷凍倉庫企業として事業展開しています。2015年8月には「バンパコン第2物流センター」が稼働し、サムロン、バンパコン、ワンノイの3エリアの物流拠点収容能力は総庫腹量約9万6千トンに拡大しました。輸送・配送事業を手掛けるBEST COLD CHAIN CO., LTD.とともに、営業力を高め着実な成長を目指します。





安定的な利益追求を基本としながらも  
強みのある商材を全社的に展開

定量目標

売上高  
1,397億円

営業利益  
25.2億円

## 垂直統合で加速するノルウェー産サーモン事業

当社は、食品販売事業における輸出入業務の集中・一元化を図るべく、2015年に海外事業部を子会社アライアンスシーフーズに統合し、より効率的な事業運営体制のもと、水産加工製品・原料の販売を強化しています。その取り組みの一環として、ノルウェーの水産加工・販売大手Hofseth International ASと資本・業務提携を2015年8月に締結し、同社との協業によるノルウェー産サーモン事業をスタートしました。当期は、北米・欧州

の量販店向けアトランティックサーモン加工品や日本国内向けの鮭ハラス製品の販売を開始するとともに、ノルウェーにおける水産加工会社と養殖会社の株式取得により、生産から加工、販売までの垂直統合モデルを構築し、さらにサプリメント製造・販売会社への出資による事業領域の拡大を図りました。

今後は一貫体制の本格稼働により、さらなる業績寄与が期待できます。

### ホフセスインターナショナルとの協業の進展

**1** 2015年8月  
当社およびアライアンスシーフーズによる  
Hofseth International ASとの資本・業務提携  
Hofseth International ASが生産する良質なノルウェー産アトランティックサーモンの加工品を安定的に調達し、日本国内を始め、北米・欧州の大手量販店向けに新たな販路を開拓するための資本・業務提携を締結しました。

**3** 2016年6月  
アライアンスシーフーズとHofseth International ASによる  
合併会社設立とFjordlaks Aqua ASの全株式取得  
トラウトサーモンの養殖を手掛けてきたFjordlaks Aqua ASの全株式を、新設した合併会社を通じて取得。その養殖設備を活かす形で、生産から加工、販売まで一貫したサーモン事業の垂直統合を完結させリスクに左右されない安定的な調達を実現します。

**2** 2016年3月  
アライアンスシーフーズによる  
Syvde Eiendom ASの全株式取得  
ノルウェーに3ヵ所の水産加工場を保有するSyvde Eiendom ASの全株式をHofseth International ASから取得。サーモン事業の体制拡充とともにホフセスグループとの関係を強化しました。

**4** 2016年8月  
アライアンスシーフーズによる  
Hofseth Biocare ASAへの出資  
サーモン製品の加工時の端材を原料にサプリメントを製造するHofseth Biocare ASAに出資。サーモン加工から派生するビジネスに参画し、事業領域を拡大していきます。



## 生産



Fjordlaks Aqua ASは、トラウトサーモンをノルウェー国内7カ所の養殖場で生育し、さらにアトランティックサーモンの養殖も視野に入れ、サーモン事業の自社生産体制を担っていきます。今後生産量を現在の1万トンから2万トンに引き上げ、自社生産比率を高めていく考えです。

## ここに注目

北極圏のフィヨルド地形が生み出す環境は、サーモンの養殖に最適とされ、またノルウェーは水産物の衛生管理面においても世界最高水準。おいしくて安全なサーモンを提供します。

## 加工



Hofseth International ASは、アトランティックサーモンの冷凍加工品や燻製品などにおけるノルウェー屈指の大手企業として、高品質な加工製品をグローバルに供給してきました。その加工品質を支えてきたSyvde Eiendom ASの水産加工場は、引き続きサーモン事業の拡大に寄与します。

## ここに注目

アライアンスシーフーズがSyvde Eiendom ASを子会社化したことで、Hofseth International ASの加工設備に関する財務内容がオフバランス化され、自己資本の拡充効果が期待できます。

## 販売



アライアンスシーフーズは、自社生産体制により増産したノルウェー産サーモンを北米および欧州に供給し、販売拡大を図ります。ここでは、Hofseth International ASが持つ販路を活かしていきます。日本国内では、鮭ハラス製品を「強みある商材」として、積極的に販売展開します。

## ここに注目

日本で人気が高い鮭ハラス製品は、1匹から採れる量が少ない部位です。アライアンスシーフーズは、Hofseth International ASより国内独占販売権を取得し、安定供給を確保しています。

Hofseth International AS  
(ホフセスインターナショナル)

2008年6月設立。ノルウェーの水産加工・販売における大手。アトランティックサーモンを主とする冷凍加工品や燻製品などをグローバルに販売。

Syvde Eiendom AS  
(シブデエインドム)

2004年3月設立。ノルウェー国内に3カ所の水産加工場(Hofseth Syvde工場、Seafood Farmers工場、Hofseth Aalesund工場)を保有・管理。

Fjordlaks Aqua AS  
(フィヨルドラックスアクア)

1975年8月設立。トラウトサーモンに特化した養殖事業をノルウェーで運営する老舗企業。スモルト(稚魚)生産施設や加工・冷凍プラントも所有。

Hofseth Biocare ASA  
(ホフセスパイオケア)

2009年8月設立。サーモン製品の加工時の端材を原料として、人用やペットフード用、養殖のエサなどに利用されるサプリメント類を製造・販売。

## 会社概要 (平成28年9月30日現在)

会社名 横浜冷凍株式会社

本社所在地 〒220-0012  
横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号  
みなとみらいブランドセントラルタワー7階  
TEL: 045-210-0011 (代表)  
FAX: 045-210-0018

設立 昭和23年5月13日

資本金 11,068,426,625円

従業員数 連結 1,489名 単独 1,064名

業務内容

1. 冷蔵倉庫業並びに普通倉庫業
2. 水産品の加工、販売並びに輸出入
3. 農畜産物の加工、販売並びに輸出入
4. 不動産賃貸業
5. 通関業
6. 貨物利用運送事業並びに貨物自動車運送事業
7. 食堂及び喫茶店の経営並びに飲食物の販売
8. その他前各号に付関連する一切の事業  
(定款における事業目的)

## 役員および執行役員 (平成28年12月22日現在)

代表取締役会長	吉川 俊雄	常勤監査役(社外)	阿部 博康
代表取締役社長	西山 敏彦	監査役(社外)	棚橋 栄蔵
常務取締役	岩渕 文雄	監査役(社外)	西元 徹也
常務取締役	井上 祐司	上席執行役員	田中 明彦
取締役	松原 弘幸	執行役員	飯島 敏正
取締役	千田 重賢	執行役員	岩倉 正人
取締役	越智 孝次	執行役員	藤五 俊治
取締役	花澤 幹夫	執行役員	安田 正美
取締役	池田 浩人	執行役員	車谷 哲男
取締役	野崎 博嗣	執行役員	内山 卓爾
取締役(社外)	加瀬 兼司	執行役員	吉田 豊
取締役(社外)	酒井 基次	執行役員	古瀬 健児
常勤監査役	中西 啓文	執行役員	鈴木 大介

## ネットワーク (平成28年9月30日現在)

### 冷蔵倉庫事業 44拠点

#### 北海道・東北ブロック

十勝物流センター  
十勝第二物流センター  
十勝第三物流センター  
石狩物流センター  
石狩第二物流センター  
喜茂別物流センター  
八戸物流センター  
気仙沼冷凍工場  
仙台物流センター

#### 圏央ブロック

加須物流センター  
加須第二物流センター  
鶴ヶ島物流センター  
伊勢原物流センター

#### 京浜ブロック

東京物流センター  
東京第二物流センター  
大黒物流センター  
横浜物流センター  
子安物流センター  
山内物流センター

#### 中京・東海ブロック

沼津物流センター  
大井川物流センター  
小牧物流センター  
名古屋物流センター  
中川物流センター

#### 阪神ブロック

夢洲物流センター  
北港物流センター  
舞洲物流センター  
西淀物流センター  
神戸物流センター  
六甲物流センター

#### 九州ブロック

福岡物流センター  
箱崎物流センター  
鳥栖物流センター  
鳥栖第二物流センター  
唐津冷凍工場  
長崎冷凍工場  
佐世保冷凍工場  
都城物流センター  
都城第二物流センター  
志布志物流センター  
鹿児島物流センター  
川辺物流センター

枕崎冷凍工場  
山川冷凍工場

### 食品販売事業 20拠点

十勝営業所  
札幌営業所  
八戸営業所  
気仙沼冷凍工場  
仙台営業所  
茨城営業所  
銚子営業所  
東京営業所  
畜産営業部  
畜産営業部大阪営業所  
沼津営業所  
名古屋営業所  
大阪営業所  
福岡営業所  
松浦駐在  
唐津営業所  
長崎営業所  
佐世保冷凍工場  
枕崎冷凍工場  
鹿児島駐在

### 連結子会社

株式会社アライアンスシーフーズ  
株式会社クローバートレーディング  
THAI YOKOREI CO.,LTD. (タイ)  
ワンノイ物流センター  
ワンノイ物流センター2号棟  
バンパコン物流センター  
バンパコン第2物流センター  
サムロン物流センター  
BEST COLD CHAIN CO.,LTD. (タイ)  
Syvde Eiendom AS (ノルウェー)  
HIYR AS (ノルウェー)  
Fjordlaks Aqua AS (ノルウェー)

### 非連結子会社

株式会社グローバルエイジェンシー  
パックス冷蔵株式会社  
Yokorei Co., Ltd. (タイ)

## 株式の状況 (平成28年9月30日現在)

発行可能株式総数 ..... 160,000,000株

発行済株式の総数 ..... 52,456,229株

株主数 ..... 12,532名

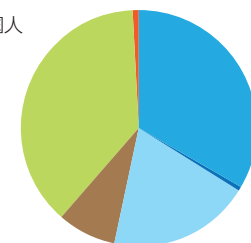
### 大株主(上位10名)

大株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,514	4.82
第一生命保険株式会社	2,205	4.23
株式会社横浜銀行	2,176	4.17
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,625	3.11
農林中央金庫	1,473	2.82
株式会社八丁幸	1,411	2.70
横浜冷凍従業員持株会	1,130	2.16
株式会社松岡	1,034	1.98
株式会社サカタのタネ	1,022	1.96
横浜振興株式会社	892	1.71

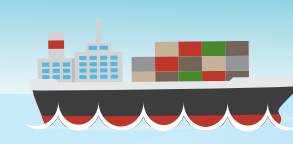
(注) 持株比率は自己株式(333,571株)を控除して計算しております。

### 所有者別株式分布状況

■ 金融機関	17,586千株	33.5%
■ 金融商品取引業者	313千株	0.6%
■ その他の国内法人	10,206千株	19.5%
■ 外国法人・外国人	4,147千株	7.9%
■ 個人・その他	19,870千株	37.9%
■ 自己名義	333千株	0.6%









**■ 全社**

**駐日タイ王国特命全権大使への  
表敬訪問ならびに  
海洋環境ハンドブックの寄贈式**

当社の寄付金を基に、タイ王国プーケット海洋生物研究所から発行されている海洋環境ハンドブックをタイ王国大使館へ寄贈するとともに、タイ王国特命全権大使へ表敬訪問を行いました。

**■ 冷蔵倉庫事業**

**国際自然冷媒会議にて  
プレゼンテーションを実施**

国際自然冷媒会議 第3回ATMOsphere Asia 2016「自然冷媒ーアジアのためのソリューション」で、冷蔵倉庫企業を代表して発表しました。また質疑セッションでは、自然冷媒取扱いのノウハウなどの討議をしました。



**■ 全社**

**地域に密着したボランティア活動**


「山下公園通り・いちょう並木クリーンアップ大作戦」と「第4地区親子ふれあい会」に社員有志がボランティアとして参加しました。今後も社員の社会貢献活動を応援するとともに、地域に愛される企業を目指します。



**■ 食品販売事業**

**ジャパンインターナショナル  
シーフードショーに  
「ブルネイ王国の海老」出展**

東京で開催されたジャパンインターナショナルシーフードショーに出展。ブルネイ産ブルーシュリンプ「ブルネイ王国の海老」を紹介し、多くの関心を集めました。



**■ 冷蔵倉庫事業**

**交通関係環境保全優良事業者として表彰**

環境に配慮した設備、技術の導入が評価され、夢洲物流センターが国土交通省近畿運輸局から「環境に優しい最先端の技術を集結した冷蔵倉庫」として、交通関係環境保全優良事業者として表彰を受けました。




**■ 食品販売事業**

**当社子会社(株)クローバートレーディングが  
優良出荷者表彰を受賞**

グループ子会社の鰻専門商社(株)クローバートレーディングが、「優良出荷者表彰」を金沢市中央卸売市場より受賞しました。今後とも優れた水産物を取扱い、市場の発展と食生活の安定に寄与します。



**■ 冷蔵倉庫事業**

**夢洲物流センターに  
カーゴナビゲーションシステム導入**

夢洲物流センターに新たにカーゴナビゲーションシステムを導入しました。移動ラックから効率的に集荷できるシステムです。今後も省力化につなげる庫内のIT化・機械化を進めていきます。



**■ 冷蔵倉庫事業**

**施設見学で活発な意見交換を実施**

2015年10月の日本冷凍空調学会の視察に続き、6月に在阪領事館視察団が夢洲物流センター、また7月にはロシアの民間企業経営者が横浜物流センターを訪れ、活発な意見交換がなされました。



**■ 食品販売事業** ノルウェー産サーモン事業 [詳しくはP7~8](#)

2016年7月 株式会社アライアンスシーフーズとHofseth International ASによる合弁会社HIYR AS設立とFjordlaks Aqua ASの全株式取得

2016年8月 Hofseth Biocare ASAへの出資

---

**■ 冷蔵倉庫事業** 新設物流センター [詳しくはP5~6](#)

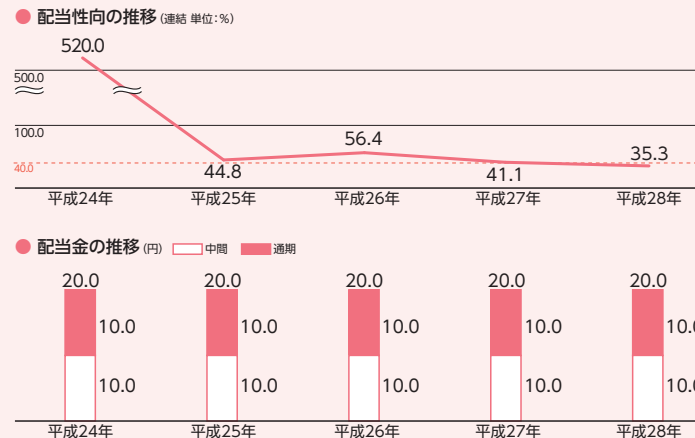
2016年4月 幸手物流センター(仮称)着工

## 株主還元方針

### 配当金・配当性向

当社では、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営目標の1つとして認識し、1株当たりの年間配当20円を目標とした安定配当の実現を基本方針としています。

この方針に基づき、当期の期末配当金は、1株当たり10円とし、年間配当金は20円とさせていただきます。



### 株主優待

(1) 1,000株以上~3,000株未満  
保有の株主さま

〔ノルウェーサーモン詰合せ〕  
アトランティックサーモン切身皮付き (約450g)  
アトランティックサーモン切身皮無し (約450g)  
スモークサーモン (50g×3パック)



(2) 3,000株以上 保有の株主さま

〔北海道産のホタテ・いくらセット〕  
いくら醤油漬け(500g)、  
生食用ホタテ貝柱(1,000g)



### 株主メモ

事業年度	10月1日より翌年9月30日まで
定時株主総会	12月
基準日	定時株主総会の議決権 9月30日
	剰余金の期末配当 9月30日
	剰余金の中間配当 3月31日
	その他必要があるときは、あらかじめ公告した日
電子公告	電子公告
公告の方法	※電子公告は当社ホームページに掲載します。なお、やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載します。 http://www.yokorei.co.jp/irnews/
単元株式数	100株
上場取引所	東京証券取引所 (第1部)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-232-711 (フリーダイヤル)

#### (ご注意)

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

### ホームページのご紹介

▶ <http://www.yokorei.co.jp/>

ヨコレイのホームページでは当社の最新ニュースや事業紹介に加え、IR情報が一目でわかるIR情報インデックスや財務ハイライトなど、個人投資家の皆さまに当社を深くご理解いただけるよう、様々なコンテンツを掲載しております。また、食の安全・安心や環境、社会貢献活動などのCSRの取り組みをご紹介します。ヨコレイでは、今後もさらにわかりやすく、充実したホームページを目指してまいります。

